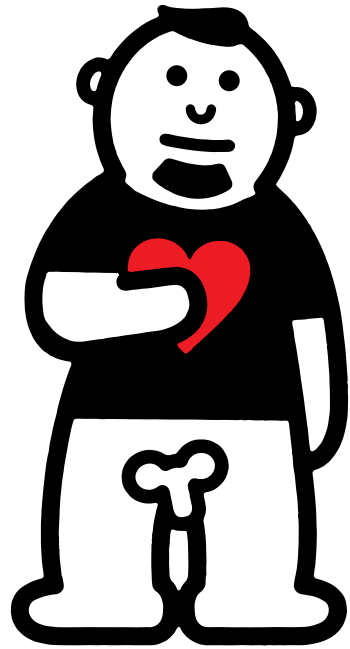
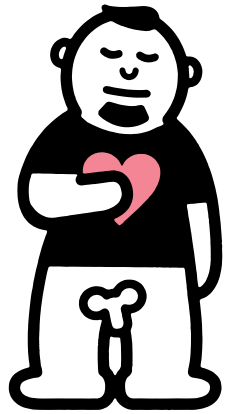
意外と知らない僕らのリアルなセックスライフって？

報告書

LOVE LIFE AND SEXUAL HEALTH



LASH



一緒に
かんがえてみよう。

6,921人の
恋やセックス、健康などを考察する。

主にゲイ、バイセクシュアル男性（MSM）を対象にしたGPS機能付き出会い系アプリに日本国内限定のバナー広告を表示。調査説明サイトに誘導後、同意を得た利用者に、性行動、HIVの意識と行動、メンタルヘルスなど、97問からなるアンケート調査を実施（2016年9月22日〜10月22日）。10,544人が回答を開始し、7,587人が全問回答。矛盾回答、重複回答などを除外した6,921人を分析対象にしたアンケート結果をご紹介します。

自分では当たり前と思っていたことが、意外と他の人には驚きの内容であったり。だからこそ、他の人がどんなセックスをしているのか、またどんな生活をしているのかは、とても気になるところ。

00 **6,921人の属性について**
回答者の属性（性別・セクシュアリティ・年齢・居住地・国籍）

01 **LOVE & LIFE**
初体験／パートナーシップと性行動／人間関係やネットワーク

02 **SEX**
性行動と予防行動

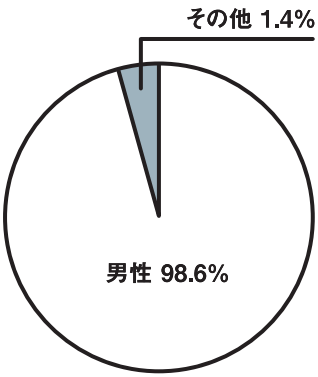
03 **HIV検査と知識**
HIV検査行動／HIVの意識／HIVの知識／新たな予防法の認知

04 **ドラッグ・薬物使用**
ドラッグ・薬物使用経験／薬物使用と性行動

回答者の属性

回答者6,921人の内訳の多くは日本国籍の男性・ゲイ。20〜30代がメインとなり、約半数にあたる47.1％が関東・甲信越、24.2％が東京在住であった。

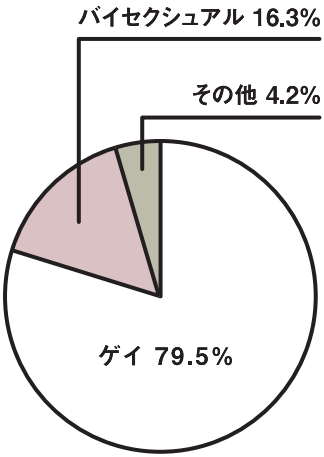
性　別



n＝6,921

「その他」では、「トランス女性（MTF）」0.6%、「トランス男性（FTM）」0.3%等、多様な回答が寄せられた。

セクシュアリティ

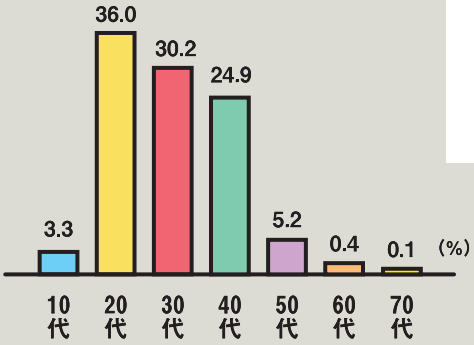


n＝6,921

「ゲイ」、「バイセクシュアル」が合計95.8%を占め、「決めたくない」、「分からない」と言う回答者も3.6%いた。

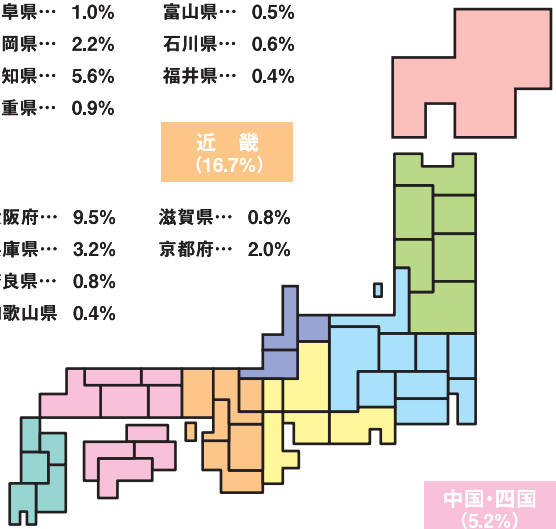
年　齢

n＝6,921



10代は3.3%、20代は36.0%、30代は30.2%、40代は24.9%、50代以上は5.7%であった。10〜30代で全体の約7割を占めた。

居住地と国籍



北海道（3.7%）

北海道… 3.7%

東　北（4.3%）

青森県… 0.7%
岩手県… 0.6%
宮城県… 1.4%
秋田県… 0.3%
山形県… 0.4%
福島県… 0.8%

関東・甲信越（47.1%）

茨城県… 1.5%
栃木県… 1.2%
群馬県… 0.9%
埼玉県… 5.0%
千葉県… 4.7%
東京都… 24.2%
神奈川県 7.6%
新潟県… 0.8%
山梨県… 0.4%
長野県… 0.8%

東　海（9.7%）

岐阜県… 1.0%
静岡県… 2.2%
愛知県… 5.6%
三重県… 0.9%

北　陸（1.6%）

富山県… 0.5%
石川県… 0.6%
福井県… 0.4%

近　畿（16.7%）

大阪府… 9.5%
兵庫県… 3.2%
奈良県… 0.8%
和歌山県 0.4%
滋賀県… 0.8%
京都府… 2.0%

中国・四国（5.2%）

鳥取県… 0.2%
島根県… 0.2%
岡山県… 1.1%
広島県… 1.2%
山口県… 0.7%
徳島県… 0.2%
香川県… 0.6%
愛媛県… 0.6%
高知県… 0.4%

九州・沖縄（11.3%）

福岡県… 5.1%
佐賀県… 0.3%
長崎県… 0.6%
熊本県… 0.8%
大分県… 0.6%
宮崎県… 0.7%
鹿児島県 0.9%
沖縄県… 2.4%

海　外… 0.4%

n = 6,921

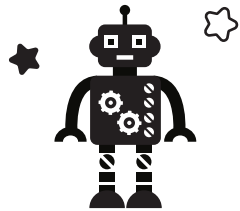
n = 6,921

日本…98.0%（6,782人）	韓国・朝鮮…0.4%（31人）	中国…0.6%（43人）	フィリピン…0.1%（9人）	タイ…0.0%（1人）
米国…0.1%（7人）	英国…0.0%（2人）	ブラジル…0.2%（11人）	ペルー…0.1%（4人）	台湾…0.1%（10人）

国内向け表示のバナー広告での日本語による調査であったので、回答者の多くが日本国籍だった。

01

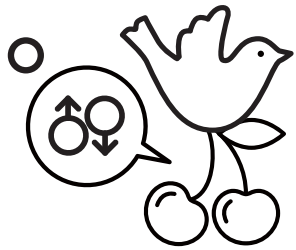
LOVE&LIFE



初体験

初めてのセックス、友達、恋人

Q. ゲイ、バイセクシュアル、トランス・ゲイ男性のセックスの相手、友達、恋人が初めてできたのは何歳のときですか?

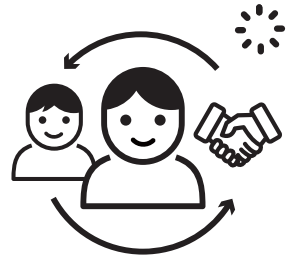


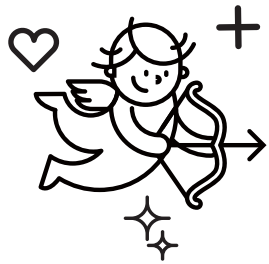
初めての
男性とのセックス
平均年齢
20.1歳

n = 6,780

初めての
ゲイ・バイの友達
平均年齢
21.7歳

n = 6,408





初めての
男性の恋人
平均年齢
22.9歳

n = 5,571

初めてのゲイ、バイセクシュアル、トランス・ゲイ男性の友達や恋人ができるより、初めて男性とのセックスを経験した年齢の方が若いという結果だった。

パートナーシップと性行動

利用（参加）したサービス

Q. 過去6ヶ月において、利用・参加したツール、施設、グループを教えてください。（複数回答可）

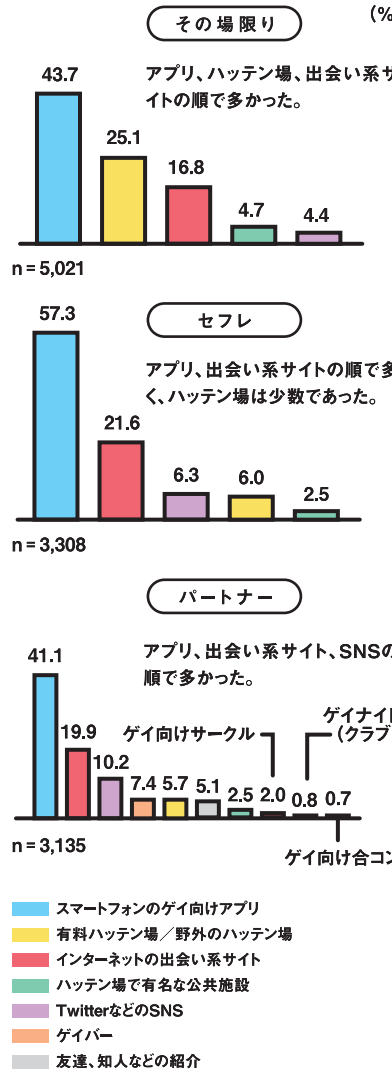
スマートフォンのゲイ向けアプリ	91.9%
TwitterなどのSNS	65.2%
インターネットの出会い系サイト	55.6%
ゲイバー	48.1%
有料・野外のハッテン場	40.5%
ゲイショップ	23.3%
ハッテン場で有名な公共施設	19.2%
ゲイナイト（クラブ）	17.6%
売り専や抜きありマッサージ	10.7%
ゲイ向けサークル	7.7%
ゲイ向け乱交パーティ	4.2%
HIVのコミュニティセンター	4.8%
ゲイ向け合コン	2.3%

n = 6,921

ネット調査なのでインターネットを介したツールの利用が高い傾向にあるが、ゲイバーが48.1%、有料・野外のハッテン場が40.5%と、対面でのコミュニケーションの場もあわせて利用している様子も見られた。

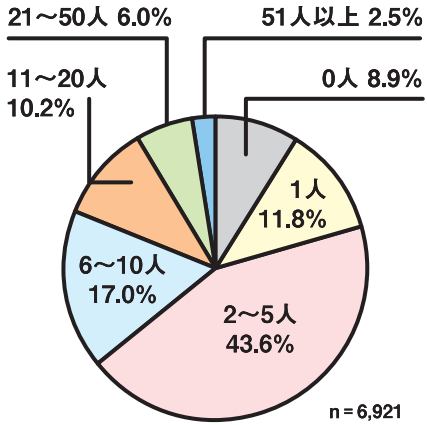
直近の相手と知り合ったきっかけ

Q. 一番直近の「その場限りの相手」、「セフレ」、「パートナー」と知り合ったきっかけは何でしたか？



セックスの人数

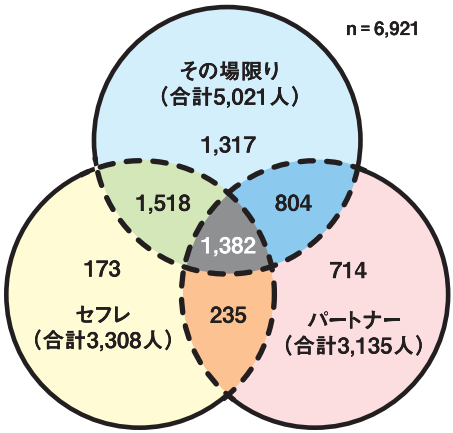
Q. 過去6ヶ月間の男性のセックスの相手の人数は、何人でしたか?



「2〜5人」が最も多く43.6%を占めたが、個人による差が大きいことが分かった。

セックスの相手

Q. 過去6ヶ月間の男性のセックスの相手は、「その場限りの相手」、「セフレ」、「パートナー」のどれでしたか?

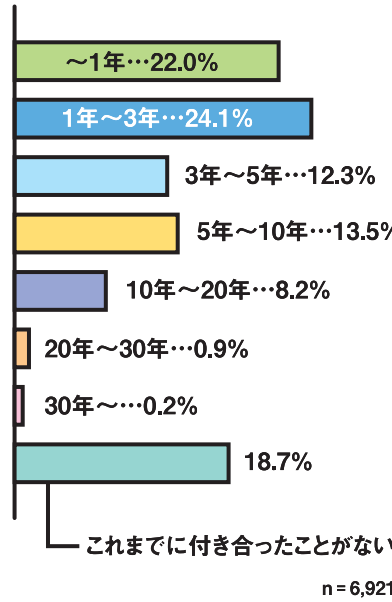


いずれもない…778人

過去6ヶ月間の男性のセックスの相手やその人数を見てみると、個人による差は大きいものの、パートナー以外の人ともセックスをしている人の割合が高いのがわかる。
また、恋愛とセックスのイメージでは、「1対1のパートナーシップを重視」する人と「性生活は割り切って楽しむ」とする人の2つに大きく分かれ、男性間におけるパートナーシップと性行動は個々によりさまざまであることがわかった。

過去の最長の交際期間

Q. これまでに一番長く男性と付き合った期間を教えてください。(現在のパートナーを含む)



最長の交際期間は、3年未満の46.1%だった。またこれまでに付き合ったことのない人は18.7%という結果だった。

恋愛とセックスのイメージ

Q. （パートナーの有無に関わらず）現在のあなたの恋愛とセックスのイメージに最も近いものを選んでください。

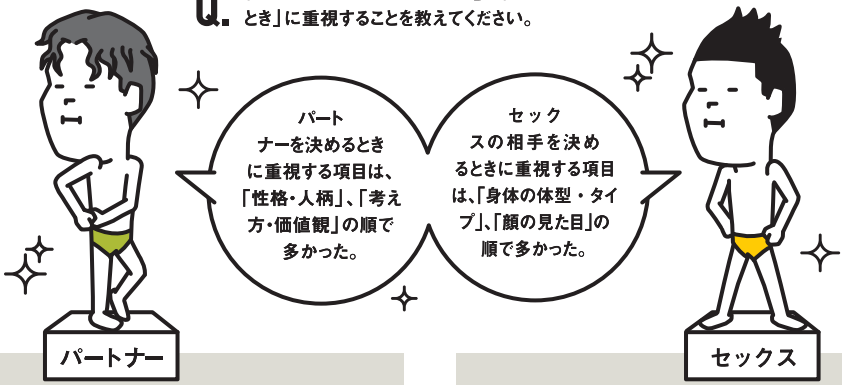
1対1のパートナー関係を重視	… 39.5%
パートナーは必要だが、性生活は恋愛とは別に割り切って楽しみたい	… 39.8%
パートナーは不要、性生活だけを楽しみたい	… 6.8%
相手に合わせるので、状況で変わる	… 13.9%

n = 6,921

「1対1のパートナー関係を重視」する人と、「パートナーは必要だが、性生活は恋愛とは別に割り切って楽しみたい」とする人とに、恋愛のイメージは二分していた。

相手選びで重視すること

Q. 「セックスの相手を決めるとき」と「パートナーを決めるとき」に重視することを教えてください。



パートナー	
性格・人柄	… 90.4%
考え方・価値観	… 77.5%
顔の見た目	… 75.8%
身体の体型・タイプ	… 70.4%
セックスの相性	… 45.9%
身だしなみやファッションの趣味	… 45.7%
働き方や収入	… 39.1%
ペニスのサイズ・形	… 17.1%
そもそもパートナーを求めていない	… 3.9%

n = 6,921

セックス	
身体の体型・タイプ	… 87.5%
顔の見た目	… 86.6%
性格・人柄	… 50.2%
セックスの相性	… 45.0%
ペニスのサイズ・形	… 27.8%
身だしなみやファッションの趣味	… 27.4%
考え方・価値観	… 22.5%
そもそもセックスだけの相手を求めていない	… 7.5%
働き方や収入	… 5.0%

n = 6,921

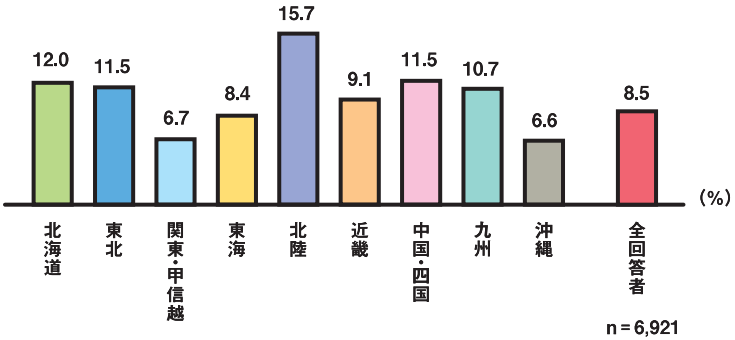
結婚とパートナーシップ

Q. あなたの現在の結婚やパートナーシップ制度の利用状況を教えてください。

	過去にした	現在している	一度もしたことがない	そもそも希望していない
女性と結婚	3.5%	5.0%	59.1%	32.4%
女性と友情結婚（訳知りの相手と）	1.1%	1.0%	67.3%	30.5%
男性と結婚（法的）	0.2%	0.2%	87.7%	11.8%
男性と式を挙げた（国内・海外）	0.2%	0.2%	86.6%	12.9%
男性パートナーと養子縁組	0.2%	0.2%	85.6%	13.9%
国内のパートナーシップ制度の利用	0.2%	0.2%	89.1%	10.5%
男性パートナーと任意後見人制度の利用	0.1%	0.1%	88.6%	11.2%
海外のパートナーシップ登録制度の利用	0.2%	0.1%	86.6%	13.1%

n = 6,921

地域別・女性との結婚経験



n = 6,921

今回の結果では、都会に比べると地方都市の方が女性との結婚経験率が高いことがわかった。回答者数は少なかったものの、中でも北陸地方では関東・甲信越のおよそ2倍に及んだ。

＋自由記述

『大人になるまで、ゲイであることを放棄して生きていこうと思っていましたが、30代に入り、自分のありのままの姿を受け入れてから、ゲイで生まれて良かった、本当に幸せだと思っています。生まれ変わってもゲイに生まれたいです。周りの仲間たちとのコミュニケーションを通して、ポジティブになったと思います。感謝しています。いつか恋愛や結婚について、より開放的な社会になることを、心より願っています。』

『最愛のパートナーを探していますが、なかなか自己の行動と現実のギャップに伴わない毎日を過ごしています。どこで知り合えばいいのか?どんな人がいるか?など情報が乏しいためハッテン場に行き、複数の人と性行為をしています。頭では分かっているのに、欲望をコントロールできず流れてしまっています。でも性感染症予防はしていますし、アナルセックスは行っていません。本当の恋愛がしたい、パートナーが欲しいと思っています。』

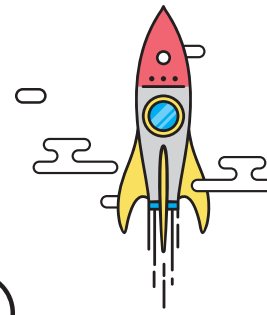
人間関係やネットワーク

友達と知り合った方法

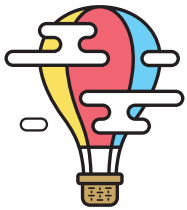
Q. あなたの親しいゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性の友達とはどこで知り合いましたか？（複数回答）

出会い系アプリで知り合った	65.6%
SNSで知り合った	38.9%
友人を通して知り合った	36.7%
ネット上（掲示板）で知り合った	35.1%
ゲイバーで知り合った	31.8%
ハッテン場で知り合った	20.4%
サークルで知り合った	10.6%
クラブで知り合った	6.2%
当事者の親しい友人はいない	5.5%

n = 6,921

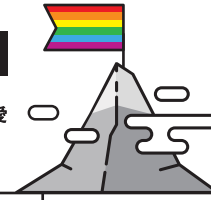


友達など人間関係を広げるきっかけは、アプリ、SNS、ネットの掲示板といったバーチャルなものだけでなく、友人を介して、ゲイバーという回答も多かった。
心を許せるゲイ・バイセクシュアルの友達がいる人は7割だった。心を許せる異性愛者の友達がいる人は6割弱だった。また、心を許せるゲイ・バイセクシュアルの友達も異性愛者の友達もいない人が2割弱だった。



心許せる友達の有無

Q. 心許せるゲイ・ バイセクシュアルの友達、異性愛者の友達はいますか?



心許せる友達の有無	心許せる異性愛者の友達がいる	心許せる異性愛者の友達がいない	合　計
心許せるゲイ・バイセクシュアルの友達がいる	46.2%（3,199人）	24.3%（1,683人）	70.5%（4,882人）
心許せるゲイ・バイセクシュアルの友達がいない	12.2%（847人）	17.2%（1,192人）	29.5%（2,039人）
合　計	58.5%（4,046人）	41.5%（2,875人）	100.0%（6,921人）

自己肯定感

名前

Q. これまでに行って自身の評価が上がったことはどれですか?(複数回答)

自分自身と当てはまるものがあったらチェックしてみよう★

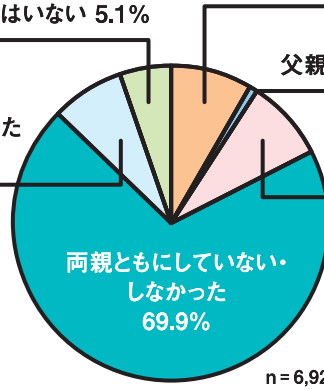
		仕事を頑張った 40.4%	体型や肉体を改造した 35.3%
ゲイ男性の友達をつくった 33.4%	SNSやアプリなどでゲイ男性として周囲とつながれた 32.2%	ゲイ男性の恋人ができた 23.1%	服装や見た目をゲイ男性に受けるものにした 20.8%
ゲイ男性だとバレない努力をした 19.5%	勉強を頑張った 19.0%	セックスで以前よりモテるようになった 16.7%	家族以外にカミングアウトした 16.1%
資格を取った 14.6%	趣味を極めた 13.6%	家族にカミングアウトした 7.9%	社会貢献活動に参加した 6.0%
LGBT向けなどのイベントに参加した 5.3%	LGBTなどのサークルに入った 5.2%	その他 3.8%	n = 6,921

MEMO

カミングアウトの経験

Q. ゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性であることを親や職場、学校でカミングアウトをした経験はありますか?

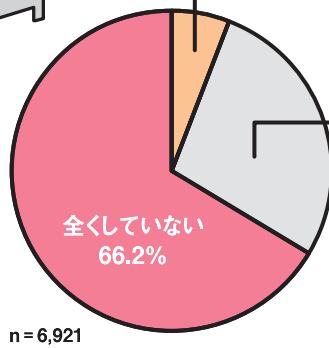
親



n = 6,921

親へのカミングアウトは、「両親ともにしていない」が7割。またカミングアウトしている場合は、「両親ともにした」と「母親のみにした」が多かった。

職場・学校

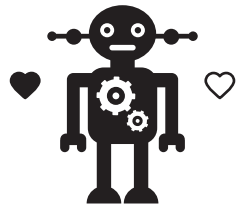


n = 6,921

職場や学校へのカミングアウトは、「全くしていない」が7割弱。またカミングアウトしている場合は、「信頼できる人にのみ」する場合が多かった。

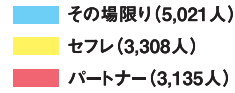
02

SEX

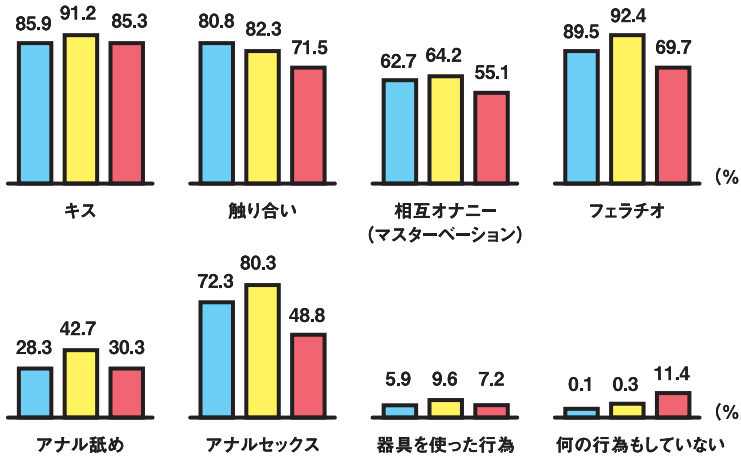


性行動と予防行動

関係別の性行為



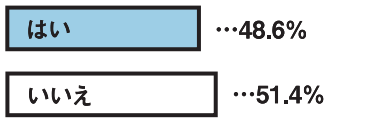
Q. 「その場限りの相手」、「セフレ」、「パートナー」それぞれと関係があった人に聞きます。過去6ヶ月間にした行為を教えてください。



パートナーとフェラチオやアナルセックスをしている人は少なく、
何の行為もしていないという人もいた。

コンドームなしのアナルセックス

Q. 過去6ヶ月において、性関係にあった相手とコンドームを使わないアナルセックスをしましたか?

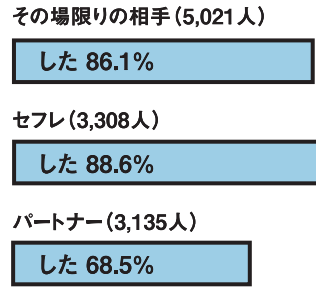


n＝6,921

回答者の約半数が、過去6ヶ月間にコンドームを使用しないアナルセックスをしていた。また、性関係にあった相手がいた人の8〜9割がコンドームを使用しないフェラチオをしていた。「パートナー」間とはやや低めの割合だった。

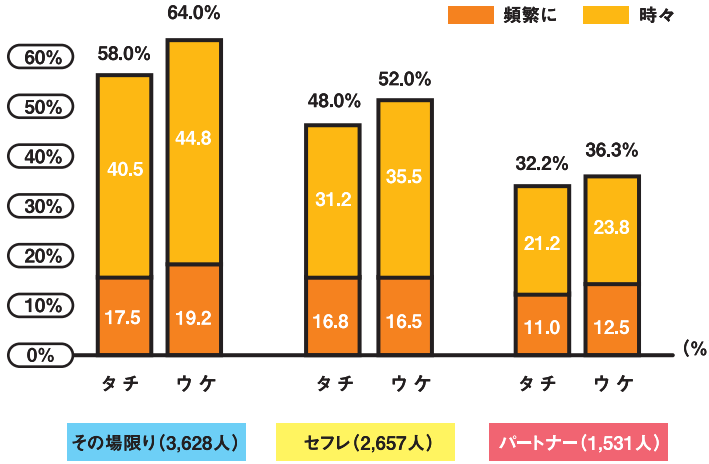
コンドームなしのフェラチオ

Q. 過去6ヶ月において、性関係にあった相手がいた人に聞きます。コンドームを使わないフェラチオ（舐める側）をしましたか?



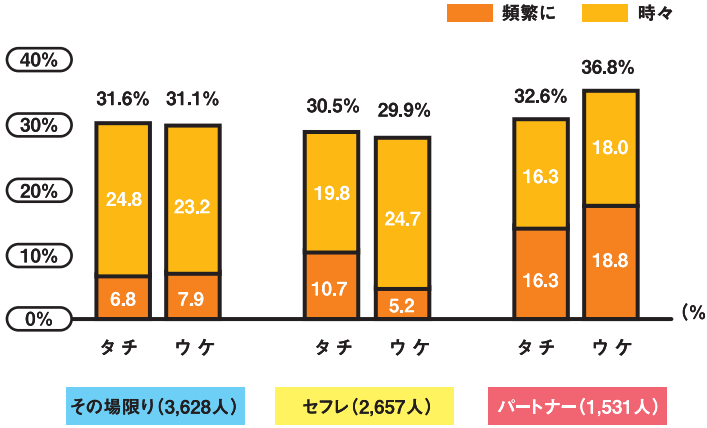
コンドームを使用してのアナルセックス

Q. 過去6ヶ月に行ったアナルセックスで、コンドームを使用した頻度はどれくらいでしたか？（アナルセックスをした人のみ）



アナルセックスの中出し経験

Q. 過去6ヶ月に行ったアナルセックスで、中でイク経験がありましたか？（アナルセックスをした人のみ）



セックスの相手との関係別でまとめてみると、「その場限り」、「セフレ」では約3割前後がタチ・ウケともにコンドームなし・射精ありのセックスをしていた。「パートナー」とはウケの際にコンドームなしで射精されるセックスの割合がやや高かった。

セックス前の検査結果の確認

Q. これまでに性関係にあった人と、自分のHIV検査結果を伝えたり、聞かれたりした経験はありますか?

		自分の結果を質問された経験			自分の結果を相手に伝えた経験			相手の結果を伝えられた経験		
		ある	ない	この相手なし	ある	ない	この相手なし	ある	ない	この相手なし
その場限りの相手	%	23.1%	69.7%	7.2%	27.0%	66.2%	6.8%	28.8%	64.6%	6.6%
	人	(1,596)	(4,827)	(498)	(1,868)	(4,581)	(472)	(1,995)	(4,471)	(455)
セフレ	%	23.6%	60.5%	15.9%	28.9%	55.8%	15.3%	28.9%	56.4%	14.7%
	人	(1,634)	(4,188)	(1,099)	(2,000)	(3,863)	(1,058)	(2,002)	(3,903)	(1,016)
パートナー	%	29.6%	56.4%	14.0%	38.9%	47.6%	13.5%	33.7%	53.1%	13.1%
	人	(2,049)	(3,905)	(967)	(2,692)	(3,292)	(937)	(2,335)	(3,678)	(908)

n = 6,921

過去に検査結果を質問された経験は、「その場限りの相手」、「セフレ」で2割強、「パートナー」で3割だった。過去に検査結果を伝えた経験は、「その場限りの相手」、「セフレ」で3割弱、「パートナー」で4割弱だった。過去に検査結果を伝えられた経験は、「その場限りの相手」、「セフレ」で3割弱、「パートナー」で3割強だった。

どの項目においても、HIV検査結果を質問された、伝えた、伝えられた経験がある人が一定程度いるという実情がうかがえる。
しかし、付き合っている「パートナー」間ではやや高く、「その場限りの相手」ほど、低いことがわかる。

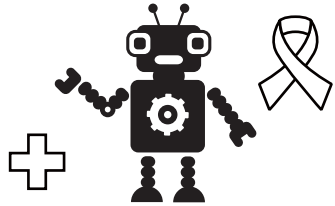
＋自由記述

『自分がゲイだと言えるゲイの知り合いはいるが、今の社会では、仕事をしていて独身だとゲイではないかと言われる。言っている本人は、何とも思わないんだろうなと思うが、言われている僕にとっては、必死で返事をする。バレないように必死。タイプとかを聞かれても分からない。適当にと思っても、女性に興味がないから分からない。ストレスが溜まる。カミングアウトしたら楽なんだろうなと思ってもできない。一生隠して生きて行く。精神的に寿命が短くなるのかなとも思ってしまう。ゲイの知り合いと話した後は少し楽になるけれど、次の日に普段と同じ解放できない、心に秘めたまま生活している。人目を気にする生活をしている。外見、話し方、服装、普通に街にいる男性と変わりはない。でも女性の話題になると少し戸惑ってしまう。だからなのか、ストレス欲求が高くなりやすい。激しいセックスを求めてしまう。カミングアウトしていない僕にとって、セックスがストレス発散になっていると思う。』

『パートナーとは定期的に検査を受けています。自分の場合は特定のセフレがいるのですが、そちらとも定期的に検査を受けて、セックスライフを楽しんで生活しています。また、私はウケなのですが、やっぱり中で受け止めたいというか、中で相手にいって欲しいと思ってしまいます。でもやっぱり病気が怖いっていうのもあります。』

03

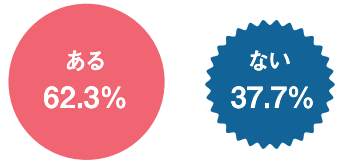
HIV検査と知識



HIV検査行動

過去の受験行動の有無

Q. これまでにHIV抗体検査を受けたことがありますか?



n = 6,921

6割強の人がHIV抗体検査を受けたことがあると回答。

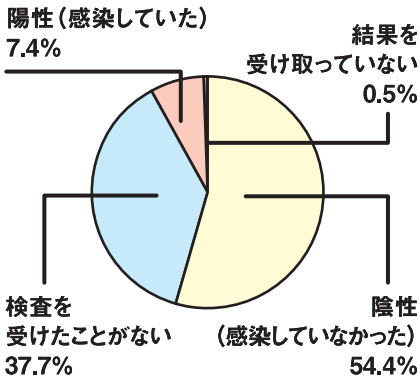
最後に受けた検査の時期と結果

Q. 最後にHIV抗体検査を受けたのはいつですか?また検査結果はどうでしたか?

この6ヶ月未満	…… 34.5%
6ヶ月以上〜1年未満	…… 19.9%
1年以上〜3年未満	…… 24.1%
3年以上	…… 21.5%

n = 4,304

この1年未満のうちに検査を受けたという人が約半数だった。



n = 6,921

検査を受けない理由

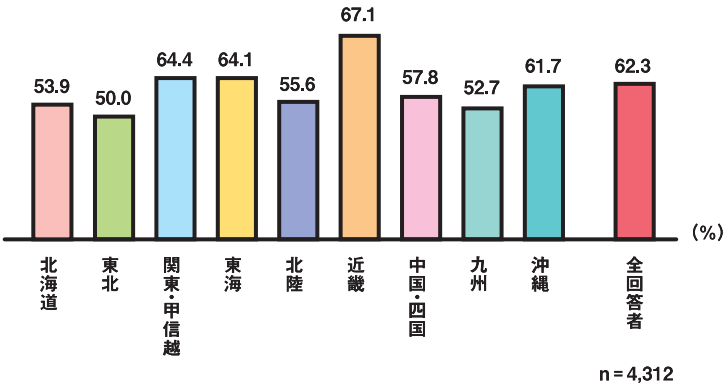
Q. HIV抗体検査を受けたことがない理由を教えてください。(複数選択)

機会がなかった	…… 63.3%
結果を知るのが怖い	…… 31.0%
感染している可能性がない	…… 28.5%
検査場所が分からない	…… 26.9%
お金がかかる	…… 15.9%
セクシュアリティの説明が面倒	…… 15.9%
曖昧なままにしておきたい	…… 10.2%
HIV感染者だと周囲に疑われる	…… 9.0%
その他	…… 4.3%

n = 2,609

検査を受けない理由は「機会がなかった」が最も多く、「結果を知るのが怖い」、「感染している可能性がない」、「検査場所が分からない」という順だった。

地域別・HIV検査経験



これまでにHIV抗体検査を受けたことがあるのは62.3%（4,312人）。地域別に比較すると、近畿が67.1%と高く、続いて関東・甲信越、東海、沖縄の順に並んだ。

5人に1人は自分の感染に気づいていない

医師の岩本愛吉さんによる調査で、日本でHIV陽性だと気づいている人の割合は、実際に感染している人の85.5%という推計値が発表された。この数字は、もしHIVに感染している人が5人いたとしたら、そのうちの4人は感染に気づいているが、1人は気づかないでいるということを意味する。気づかないでいる1人は当然、未治療であるため、予防をしないでセックスをすれば誰かにHIVを渡す可能性がある。感染に気づき、治療を開始している人たちの多くは、薬の効果によりウイルスを検出限界以下という状態に抑え込んでいる。しかし、気づかないでいる人は体内にウイルスが多く存在することになる。こうした、自分の感染を知らないままでいる人たちをいかに少なくするかが私たちの課題だろう。そのためにはまず、HIV検査を受けたことがない人は受けることを考えてみてほしい。

参考文献：Aikichi Iwamoto, Rikizo Taira, Yoshiyuki Yokomaku, et al.
The HIV care cascade: Japanese perspectives. PLOS ONE. 2017:12(3): e0174360.

©日本NPOセンター

「Undetectable = Untransmittable」検出限界以下ならばうつらない

2016年に発表されたヨーロッパの「パートナー研究」では、HIV陽性の人でも治療により血液中のウイルス量が検出限界以下であれば、異性間でも同性間でもコンドームなしであってもセックスをしたパートナー間でHIVの感染が起こらなかったと報告された。これはヨーロッパ14ヶ国、75ヶ所の医療機関で、一方が陽性・もう一方が陰性の計888カップル（男性同性間、および男女間）を数年にわたり観察した調査の結果だ。統計学的な誤差を考慮すると、コンドームなしでセックスをしても必ず大丈夫とは言い切れないようだが、翌2017年にも、ゲイ男性のカップルを対象にした調査で同様の結果が得られたことが報告されている。

これらの研究により、HIVに感染しても、治療をして効果が十分にある場合には、パートナーやセックスの相手にHIVを渡す可能性がかなり低いことが明らかになった。そこで、HIV陽性者を感染源と見なす差別をなくしていこうという取り組みが世界で始まっている。

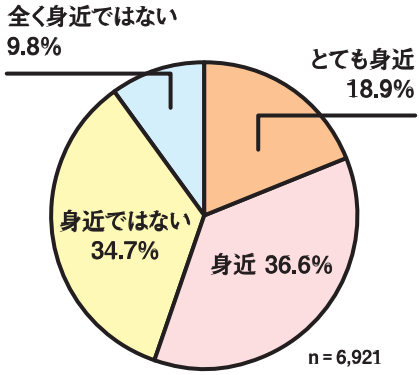
HIVに感染した後、抗HIV薬を飲み続けることにより多くの場合、ウイルスを血液中から見つからないレベル（検出限界以下）に抑えることができる。しかし、今回私たちが行った調査では、HIVの治療の効果によって誰かを感染させることがなくなるということは、あまり知られていなかった（P31参照）。

参考文献：Alison J. Rodger, Valentina Cambiano, Tina Bruun, et al. Sexual Activity Without Condoms and Risk of HIV Transmission in Serodifferent Couples When the HIV-Positive Partner Is Using Suppressive Antiretroviral Therapy. JAMA. 2016;316(2):171-181.

HIVの意識

HIVの身近感

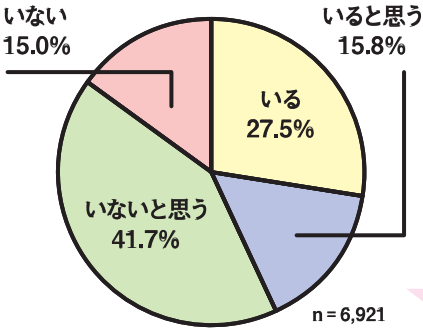
Q. あなたにとってHIVは身近なものですか?



HIVが身近だと感じる人は55.5%、身近ではないという人は44.5%だった。

HIV陽性者の友達や知人の有無

Q. あなたの友達や知り合いにHIVに感染している人はいますか?



HIV陽性者の知人が「いる」、「いると思う」が43.3%、「いない」、「いないと思う」が56.7%だった。

普段の生活の中でHIV陽性であるかないかを話しやすいかという質問では、「全く話しやすいとは思わない」が57.2%、「話しやすいとは思わない」が38.1%だった。それに対して「話しやすいと思う」が3.8%、「とても話しやすいと思う」が0.9%だった。全体の95.3%が話しやすいと思わないと回答。また、HIVの流行の中心が男性間のセックスである認識においては、「そう思う」が60.1%、「そう思わない」が27.8%、「分からない」が12.2%だった。実際には、2016年の厚生労働省のエイズ動向委員会報告によると、HIV陽性者のうち未発症者「HIV感染者」の72.7%、発症者「AIDS患者」の55.1%が男性同性間の性行為による感染である。

地域別に見た場合...

HIV陽性者の友達や知人が「いる」、「いると思う」が全体で43.3%。地域別では、これまでにHIV検査を受けたことがある割合(P27参照)と同じく、近畿が48.3%と高かった。それに続いて、関東・甲信越で45.6%、沖縄で45.5%、北海道で43.8%だった。また、「いない」、「いないと思う」が全体で56.7%に対し、中国・四国が65.9%、北陸が65.7%、東北が65.6%と全体より高かった。

HIVの知識

HIV感染や予防の知識を持つことはとても大切なこと。ぜひ右の10項目をチェックして、きちんと理解できているかをおさらいしてみましょう。

HIV感染や予防の知識

Q. 以下の質問で正しいものには○、間違っているものには×を選んでください。

○だと思う
×だと思う

HIV感染に気づいている人は、治療を継続することで、血液中からウイルスがほとんど見つからなくなる

正解 ○

治療を行えば血液中のウイルスが見つからないレベルに抑えることが可能になった。○が正解だが、HIV＝ウイルスであると認識しなかった人がいる可能性も。

性感染症（HIV以外）にかかっていると、HIVに感染しやすくなる

(%)

正解 ○

HIV以外の性感染症（梅毒、淋病、クラミジアなど）に感染していると、粘膜に炎症を起こしやすくなり、感染の確率がさらに数倍増加。

HIVに感染しても、早期に治療を開始すれば長く生きられる

正解 ○

免疫力があまり失われていない早期の段階であれば、HIV感染症の進行を抑えることで、長く健康な生活を送ることができる。

HIVの治療費を低く抑えることができる社会制度がある

正解 ○

制度によって区市町村の窓口や手続方法が異なるが、医療費の負担や福祉サービス、生活費など、いくつかの制度が利用可能。

通院し治療を受けても、HIVのプライバシーは守られ、役所、病院などから職場や学校に勝手に伝わらない

正解 ○

「個人情報の保護に関する法律」が厳しく規定され、プライバシーはきちんと守られるので安心。

セックスの相手がHIVに感染している場合でも、感染に気づき治療を継続している場合には、感染の可能性は非常に低い

正解 ○

きちんと治療を行っていれば、血液中のウイルスが見つからないレベルになっている＝感染源ではなくなる。

HIV感染に気づかずにいると、セックスを通じて体内のウイルスを誰かにうつすことがある

正解 ○

感染していることに気がつかないことで、知らずに、誰かにうつしてしまうケースもある。

オーラルセックスでのHIV感染のリスクは低いが、ゼロではない

正解 ○

精液やカウパー液、粘膜を介して感染するリスクは0.1％以下だが、決してないとは言い切れない。

先進国ではHIVの主な感染ルートは男性同性間のセックスによるものである

正解 ○

アナルによる性交渉が行われるケースが多く、小さな傷からHIVウイルスが侵入し感染する傾向が高いことがひとつの理由。

コンドームを使用することで、HIVだけでなく、他の感染症のリスクも減らせる

正解 ○

性器および口腔粘膜と体液が直接接触するのを抑えてくれるので、感染症のリスクも減らせる。

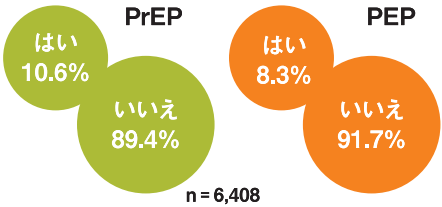
n＝6,921

新たな予防法の認知

6,408人の回答
※HIV陽性者513人を除く

PrEPとPEPの認知

Q. PrEP（HIV暴露前予防）とPEP（HIV暴露後予防）とは何か知っていましたか?

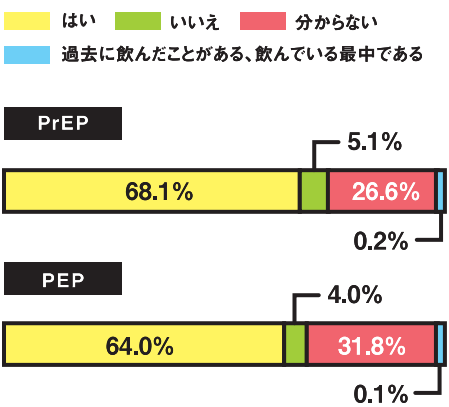


n = 6,408

海外では、治療のために使われる抗HIV薬を予防のために利用する取り組みが始まっている。国内でのPrEP認知は10.6%、PEP認知は8.3%と未だに低い。

PrEPとPEPの服薬希望

Q. HIV感染の予防のためにPrEPとPEPがあったら飲みたいですか?



n = 6,408

PrEPに関しては68.1%の人が、PEPに関しては64.0%の人が、もし服用できるのであれば飲みたいと回答した。過去に飲んだことがある、あるいは現在内服中であると回答した人は、PrEPでは0.2%、PEPでは0.1%とまだ少数派だった。

PrEP（HIV暴露前予防）とPEP（HIV暴露後予防）

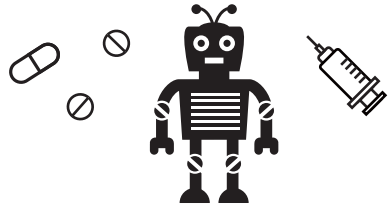
HIVのPrEPとはPre-Exposure Prophylaxisの略で、日本語では「暴露前予防」といわれる。HIVに感染していない人が、感染リスクのある行為（コンドームなしのセックスや注射器具の共用による薬物注射など）の「前」から抗HIV薬を定期的に服用することで、HIVの感染リスクを下げることができる方法。定期的にHIV陰性であることを確認することと、医師による見守りが必要だといわれている。一方PEPとはPost-Exposure Prophylaxisの略で、暴露後予防と訳される。これはリスク行為があった「後」できるだけ早く（遅くても72時間以内）に、最低3剤からなる抗HIV薬を4週間内服することで、感染リスクを下げるという方法。

HIVに完全に感染しないわけではないことに注意すること、また他の性感染症には効き目はない

PrEPは感染のリスクは抑えることができても、それだけで100%だとは限らない。また、抗HIV薬なので、他の性感染症には効かないので、他の病気にかかるリスクはなくならない。このような観点から、PrEPを行う際でもコンドームを必ず使用することが重要である。

04

ドラッグ・薬物使用



ドラッグ・薬物使用経験

ドラッグ・薬物使用の目撃・被誘惑・使用経験

Q. これまでに誰かがドラッグ・薬物を使用しているのを見たこと、誰かに勧められたこと、自身で使った経験はありますか?

これまでに誰かがドラッグ・薬物を使用しているのを見たことがある	これまでにドラッグ・薬物を勧められたことがある	これまでドラッグ・薬物を使用したことがある
41.4%(2,865人)	36.1%(2,498人)	25.4%(1,756人)

n = 6,921

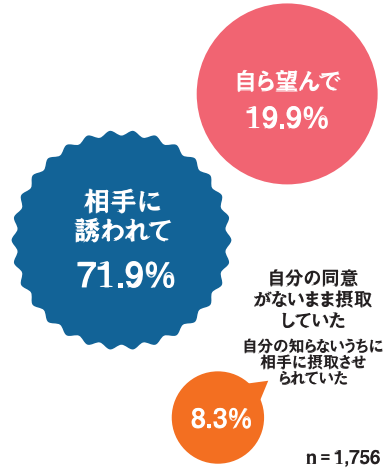
普段の生活の中でドラッグ・薬物の話題が話しやすいかという項目では、「話しやすいとは思わない」が45.9%、「全く話しやすいとは思わない」が34.9%だった。それに対して「話しやすいと思う」が16.7%、「とても話しやすいと思う」が2.6%と、全体の2割が話しやすいと回答。

また、ドラッグ・薬物を使用することのイメージについては、「違法」が84.3%、「危険・怖い」が84.1%、「はまると怖い」が72.4%、「ダサい」が25.3%、「楽しい・気持ちいい」が13.8%、「コントロールできていれば大丈夫」が6.0%、「オシャレ・カッコイイ」が0.9%だった。

ドラッグ・薬物のイメージは多様だが、「違法」、「危険・怖い」、「はまると怖い」という回答が多くの割合を占めた。

ドラッグ・薬物使用の状況

Q. 初めてドラッグ・薬物を使用したときの状況を教えてください。

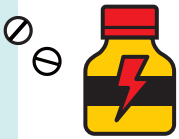


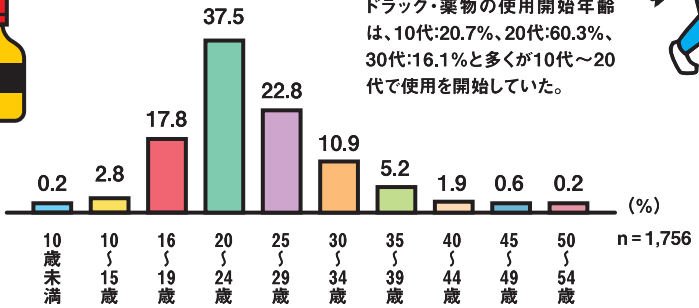
n = 1,756

「これまでにドラッグ・薬物を使用したことがある」人が25.4%いるうち、「相手に誘われて」使用した人が7割以上を占めた。

ドラッグ・薬物の使用開始年齢

Q. 初めてドラッグ・薬物を使用したのは何歳のときでしたか？





n＝1,756

ドラッグ・薬物の使用開始年齢は、10代:20.7%、20代:60.3%、30代:16.1%と多くが10代～20代で使用を開始していた。

ドラッグ・薬物使用の相手

Q. 初めてドラッグ・薬物を使用したとき誰かと一緒でしたか？（複数回答可）

その場限りのセックスの相手	44.3%
セフレ	30.9%
友達・先輩・後輩	14.9%
パートナー	13.3%
自分一人	8.5%
覚えていない	3.2%
乱交パーティにいた知らない人	2.8%
その他	0.7%

誰と一緒だったのかを聞くと、多くはセックスの相手だった。「友達・先輩・後輩」だったという人も14.9%いた。

n＝1,756

ドラッグ・薬物使用の場所

Q. 初めてドラッグ・薬物を使用した場所はどこでしたか？

セフレの家	21.0%
ハッテン場	18.6%
ホテル	16.2%
自分の家	13.8%
友達・先輩・後輩の家	7.8%
覚えていない	6.9%
パートナーの家	6.6%
野外	4.0%
クラブ	2.8%
その他	2.4%

初めてドラッグ・薬物を使った場所は、その多くが性行為の場所と重なると思われる。

n＝1,756

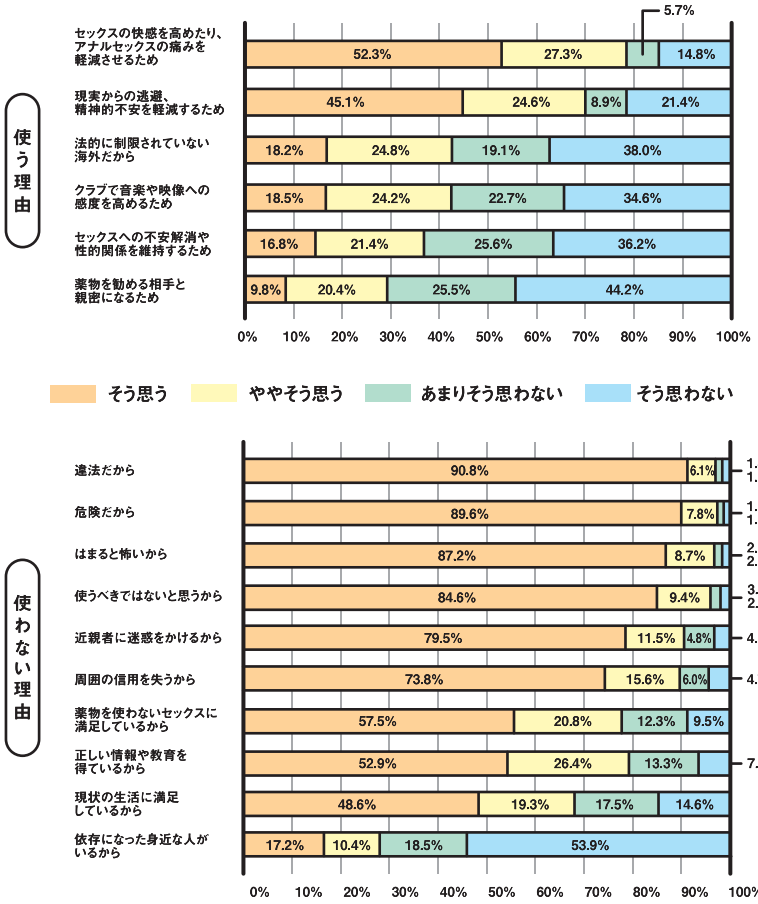
＋自由記述

『質問項目から、自分が以前苦しんでいた薬物依存症について認知度が上がりだんだん表面化してきたのかなと感じた。本当に救いの手が広がればと思った。』

ドラッグ・薬物の使用・不使用理由

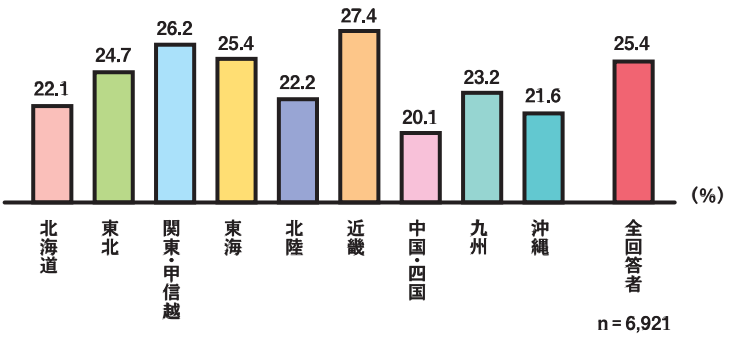
Q. ドラッグ・薬物を使用する理由（使用したことがない人は想像）と、使用しない理由を教えてください。

n＝6,921



ドラッグ・薬物を使用する理由では、セックスの快感と現実逃避、不安軽減に「そう思う」という意見が多く、違法でない海外での使用やクラブでの感度を高める理由では「ややそう思う」という意見が多かった。一方「使わない理由」としては、「違法だから」「危険だから」「はまると怖いから」「使うべきではないと思うから」など遵法精神や公徳心、依存症への恐れに関する項目に対し「そう思う」と回答する人が多かったが、「薬物を使わないセックスに満足しているから」「現状の生活に満足しているから」といった生活全般や性生活への満足度を不使用理由として挙げる人も多かった。

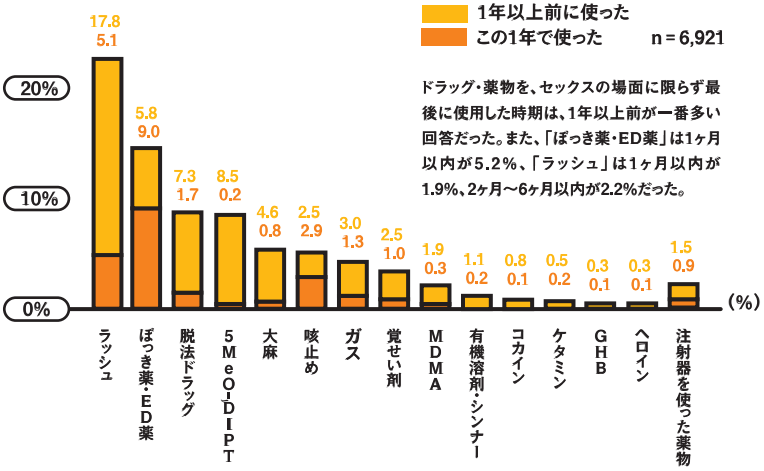
地域別・ドラッグ薬物使用経験



n = 6,921

これまでに、ドラッグ・薬物を使った経験が「ある」と答えたのは全体で25.4%。居住地域別では、近畿（27.4%）、関東・甲信越（26.2%）、東海（25.4%）と大都市圏居住者の薬物使用経験割合が高かった。中国・四国（20.1%）、沖縄（21.6%）、北海道（22.1%）など地方における薬物使用経験割合は比較的少なかったが、どの地域も20%台であり、地域間格差は大きくはなかった。

ドラッグ・薬物の最終使用時期



ドラッグ・薬物を、セックスの場面に限らず最後に使用した時期は、1年以上前が一番多い回答だった。また、「ぼっき薬・ED薬」は1ヶ月以内が5.2%、「ラッシュ」は1ヶ月以内が1.9%、2ヶ月～6ヶ月以内が2.2%だった。

薬物使用と性行動

過去6ヶ月以内に薬物を使用した経験のある人（以下、薬物使用者）の割合は全体の11.3%（780/6,921）であり、そのうち最もよく使われていた薬物は多い順にぼっき薬・ED薬（7.6%）、ラッシュ（4.1%）、次いで咳止め（ブロン）（1.8%）であった（P37参照）。

薬物使用者は、非使用者と比べて以下のHIV感染リスクの高い性行動をより行っていることが確認された。

薬物使用とHIV感染リスクの関連性

HIV感染リスクの高い性行動	薬物使用者	薬物非使用者	オッズ比*（95%信頼区間）
①性的パートナーが6人以上いる	60.4%	32.7%	2.75（2.34–3.22）
②コンドームなしのアナルセックス経験がある	72.9%	45.5%	2.92（2.46–3.46）
③2人以上との同時セックス経験がある	54.9%	27.7%	2.63（2.25–3.08）
④セックスをすることで金銭を受け取った経験がある	7.6%	3.7%	2.31（1.69–3.18）

*年齢層、教育レベル、HIVステータスで調整

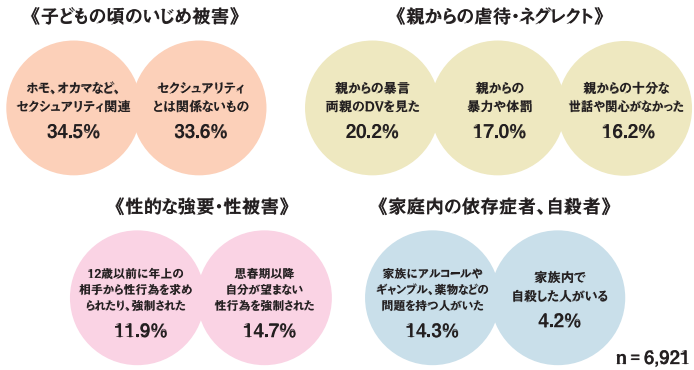
n = 6,921

これらの差は、年齢層、教育レベル、HIVステータスといった個人因子の影響を除外しても統計的に有意（$p<0.001$）であった。薬物使用によってセーファーセックスに対する意識が低くなってしまう可能性が示された。

子ども時代の体験が
HIV感染や薬物使用に影響している!?

セックスによってHIVに感染する可能性は誰にでもあるが、人によって、そのリスクに違いはあるのか。また、薬物を使ってみたいと思ったり、薬物に頼らざるを得なかったりするのは、どんなときなのだろう。

諸外国の研究では、子ども時代にトラウマとなる体験を重ねている人ほど、成人になってから薬物を使用しやすくなり、HIV感染のリスクも高まり、生活の質（QOL）も低くなることが明らかにされています。トラウマとは、親からの虐待やネグレクト（養育放棄）、いじめや性暴力といった強いストレスによる傷つき体験のことです。また、家庭において、両親のDVや離別、親の依存症（アディクション）などがあると、子どもは安心して育つことができません。子どもの健康的な発達の妨げになるようなできごとを逆境体験といいます。トラウマや逆境体験によって、自己否定感や他者への不信感が強まると、さまざまな問題が生じます。



回答者の過半数がいじめを受けたことがあり、心理的虐待、身体的暴力、ネグレクトといった家庭でのトラウマや、家族のアディクション、家族の自殺といった逆境体験もありました。さらに、性暴力は、12歳以前と思春期以降に経験したものが、それぞれ約7〜9人に一人の割合にあたりました。
これらの体験が3つ以上あることと、現在、HIV陽性であることには関連がみられました。4つ以上になると、そのつながりはさらに強まりました。そして、トラウマや逆境体験が1つでもあると、ない場合よりも、薬物使用との関連が強くみられました。そうした体験を重ねるほど、さらに薬物を使うこととの関連は強まることもわかりました。

子ども時代の体験は、その後の対人関係の持ち方や生き方に影響を及ぼします。トラウマや逆境体験がある人に特有の課題やニーズがあると考えられます。性行動や薬物使用は、いずれも対人関係のなかでの行為です。ハイリスクな関係性や行動の背景には、本人のつらさや困りごとがあるかもしれません。それらを理解しながらケアやサポートを行う姿勢が求められます。

データ編集：
生島嗣（特定非営利活動法人ぷれいす東京）
野坂祐子（大阪大学大学院）
山口正純（武南病院）
三輪岳史（特定非営利活動法人ぷれいす東京）
大槻知子（特定非営利活動法人ぷれいす東京）
林神奈（サイモンフレイザー大学）
井上洋士（放送大学）
仲倉高広（京都大学大学院）
大島岳（一橋大学大学院）
藤田彩子（東京大学大学院、特定非営利活動法人ぷれいす東京）
及川千夏（特定非営利活動法人ぷれいす東京）
若林チヒロ（埼玉県立大学）
樽井正義（特定非営利活動法人ぷれいす東京）

本編集：生島嗣・大槻知子
（特定非営利活動法人ぷれいす東京）
イメージモデル：SHINYA、KAZUO
画像編集：EMF
写真：EISUKE
イラスト：潟見陽、YAGI
デザイン：村上ひろし
（有限会社テラ出版・バディ編集部）
発行年月日：2018年3月

「意外と知らない僕らのリアルなセックスライフ ～LASH調査報告書～」

本報告書は、平成29年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「地域においてHIV陽性者と薬物使用者を支援する研究班」（研究代表者:樽井正義）分担研究「MSMの薬物使用・不使用に関わる要因の調査」（研究分担者:生島嗣）により制作しました。

※データは2016年9月22日～10月22日に実施したアンケート調査「LASH調査」の6,921人の回答結果をもとに作成。主にゲイ・バイセクシュアル男性を対象にしたGPS機能付き出会い系アプリ「9monsters」に国内限定で広告を出稿し、説明サイトに誘導後、同意を得た利用者にアンケートを表示。性行動、HIVの意識と行動、メンタルヘルスなど97問からなる質問紙調査を行った。10,544人が回答を開始し、7,587人が全問回答。矛盾回答、重複回答などを除外した6,921人を分析対象とした。調査にご協力・ご参加いただいた皆様に感謝します。

お問い合わせ先：
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403
特定非営利活動法人ぷれいす東京 研究事業部
URL www.chiiki-shien.jp
MAIL kenkyu.jimu@gmail.com

※データを引用される際にはご一報ください。

LASH -Love Life and Sexual Health-

主にゲイ、バイセクシュアル男性（MSM）を対象に、LOVEライフ、セクシュアルヘルス（性の健康）、メンタルヘルス（こころの健康、薬物使用など）に関する情報を発信するウェブサイト

http://lash.online

＊LASH.onlineには、困ったときに相談できる団体やグループへのリンク集も載っています。
ぜひご覧ください。 http://lash.online/support-link/

6,921人の恋やセックス、健康などを考察する。

主にゲイ、バイセクシュアル男性（MSM）を対象に、LOVEライフ、セクシュアルヘルス（性の健康）、メンタルヘルス（こころの健康、薬物使用など）に関する情報をお届けする「LASHonline」。このパンフレットでは、6,921人の「LASH調査」をもとにした多様なあり方をご紹介。あなたの日常生活にぜひ役立ててみてください。

LASH
Love Life and Sexual Health
www.lash.online